

2023年3月11日 東日本大震災から12年を数えての祈り

東北バプテスト連合 被災支援委員会

主よ、東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故から12年が経ちます。これまでの主の寄り添いと導きに感謝いたします。そのような中、昨年3月16日に発生した福島県沖を震源とする震度6強の大きな余震に12年前の大震災を想起しました。さらに先月2月6日、トルコとシリア国境付近で起こり甚大な被害をもたらしている大地震を覚え、心を痛めています。私たちは今もなお、震災と震災の間を生きていることを思い、被災された方々のために共に祈りを合わせます。

主よ、私たちは12年前の大震災によって失われた15,900人<sup>1</sup>と、関連死した3,786人<sup>1</sup>の命を覚え、いまだに行方不明となっている方が2,523人<sup>2</sup>と、その安否確認ができないでいるご家族関係者のことを思います。さらに津波や原発事故によって避難を強いられている方が31,438人<sup>3</sup>おられます。震災から12年を経過しても「原子力緊急事態宣言」は発令中であり、福島原発立地地域では避難指示が解除され、新たに特定帰還居住区域が指定されましたが、なお帰還希望者の減少、インフラ整備の遅れなどで町の回復には至っていません。

どうか主よ、避難者の皆さんの将来への道筋と希望を与え、導いてくださるようお願いいたします。また、国の復興予算は前年を大幅に下回り、地方自治体における必要とされる復興事業も縮小せざるを得なくなっています。必要な復興支援が確保されるようお支えください。

主よ、東京電力福島第一原子力発電所における廃炉作業は遅々として進まず、今春の「ALPS(アルプス)」汚染処理水の放出が決まりました。福島県のみならず、宮城県でもようやく回復してきた漁業における深刻な被害が懸念されています。また、宮城県の東北電力女川原発2号機は住民の、リスク懸念をよそに来春の再稼働となり、国は全国原発の60年延長利用に舵を切りました。主よどうか、日本各地で想定されている巨大地震や、薄れつつある原発への危機感を私たちが失うことなく、取返しのつかない事態が再び起こることのないようお導きください。そして、その備えを私たちが忘れず、目を覚ましていくことができますように。

主よ、新型コロナウイルスの感染拡大も、様々な規制が緩和され収束に向かうかに見えます。しかし失われる命は留まることなく、基礎疾患がある方や高齢者、幼児などへの影響が懸念されています。また、現在起こっているミャンマーでの軍事クーデター、ロシアによるウクライナ侵攻など、各地での争いと暴力は全世界に暗い影を落とし、また多くの人権問題を起こしています。戦争による核の脅威やエネルギー問題、環境破壊による温暖化は、私たちの生活に脅威と不安を与えています。主よ、どうか主の平和がありますように。そして私たちが和解のつとめに仕える者としてください。

主よ、これからも私たちが被災された方々のことを忘れず、世界で起る新たな苦難の中で苦しみ痛む人たちに寄り添っていけるよう、私たちの信仰を新たにしてください。いつもあなたが共にいてくださることを忘れず歩む私たちでありますように。

みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように。

イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン

※この祈りは、2021年度をもって解散した現地支援委員会から引き継いだ東北連合被災支援委員会が作成しました。

<sup>1</sup> 2023年2月11日現在。河北新報。

<sup>2</sup> 2023年2月11日現在。河北新報。

<sup>3</sup> 2022年11月1日現在。復興庁ホームページ。このうち、2万1,392人は福島県から県外への避難者。